

編 修 趣 意 書

(教育基本法との対照表)

受理番号	学 校	教 科	種 目	学 年
106-241	高等学校	国語科	言語文化	
発行者の番号・略称	教科書の記号・番号	教科書名		
15 三省堂	言文 015-901	精選 言語文化 改訂版		

1. 編修の基本方針

言葉を学ぶ。言葉で生きる。

主体的に学ぶ

学び方を習得し、見通しをもって自覚的に活用しながら、学びに向かう力を高めます。

対話をとおして学ぶ

他者との交流・共有をとおして、多様な価値観が共生する社会で生きる力を高めます。

深く学ぶ

知識・技能と思考力・判断力・表現力を確実に育成し、言語文化の担い手を育てます。

この教科書は、教育基本法に掲げられた目標及び学習指導要領の目標を達成するために、以下に掲げる方針を基軸として編修しました。その際、中学校の国語学習の到達点を意識し、高等学校の国語学習が円滑にスタートできるよう、基礎・基本をふまえ、教材の内容、配列、課題の設定を工夫しました。

- ① 多様な見方、考え方、感じ方にふれ、物事を総合的に捉えることのできる、幅広い人間性、豊かな感性と判断力を育てる。

国際的な高度情報化社会の到来とともに人や物の交流が盛んになる一方、国内では人口構成や産業構造の変化による社会や生活における意識の多様化など、さまざまな問題が起こっています。多様な価値観との共存が求められる現代社会においては、こうした現実に対処するために、さまざまなものの見方、考え方、感じ方を知り、物事を大局的・多角的に捉え、的確に判断するバランスのとれた能力が必要になります。これからのグローバル社会に対応し持続可能な社会の担い手となる人材の育成に

向けて、この教科書では特に、理解の質を高め確かな学力を育成することに意を尽くしました。また、思考力・判断力・表現力を有機的に関連づけた教材と学習課題を効果的に配置するよう心がけました。さらに、他者の話や文章における情報や主張を的確に切り分けつつ理解し、それに対する自己の主張を論理的に展開させる課題を配置することで、国際社会を生きるための総合的な国語力と個の自覚を育成することを目指しました。

② 自ら学び自ら考える意欲を喚起して、主体的に生きてゆく力をはぐくみ、国語の力を育成する。

高度情報化社会の到来やA I（人工知能）の進展などに伴い、現代社会を自覚的に生きるには、氾濫する情報を適切に収集・整理していく能力が求められます。そのことが、他者を尊重しつつ、自ら学び自ら考え主体的に生きる力の基本になります。そうした観点から、この教科書では、特に言葉をとおして現実をみつめます。他者を理解しつつ、主体的に考え、伝え合う言語活動をとおして、生徒一人一人の国語の力を育成することを第一のねらいとしました。これは生涯にわたって日本の言語文化に親しみ、その担い手として、生きて行くための基本的な能力の育成につながります。複雑化する現代社会に対応する人材を育成するために、国語教育の受け持つ領域は、もっとも基本的かつ広範なものです。そのための教材の厳選・適正な学習活動の展開には細心の配慮をしました。

③ 伝え合う力を確かなものにするため、表現学習を重視し、理解学習と総合化した体系的な国語教育を目指す。

伝え合うという作業は、相手を理解することであると同時に、自己を表現することでもあります。生徒たちの言語生活を真に生き生きとしたものにし、伝え合う力を確かなものにしてゆくためには、「書く」領域における表現活動と、「読む」領域における理解活動とが有機的に配置され、総合的に位置づけられる必要があります。この教科書では、表現、理解の学びに独自の学習の場を設定することで、それぞれの学習の場において、生徒たちの活発な学習活動を促し、話す・聞く、書く、読むの全ての領域にわたる言語能力を高めるよう配慮しました。その際、これまでの内向的な学びの傾向への反省から、自分の意見や考えを積極的に発信することで、他者ととともにする協働的な活動をとおして、開かれた個性の育成、広範な教養の育成を目指しました。

④ 国語に関する知識を深めることにより、国語に対する関心を高め、国際社会に生きる国語の力を獲得させる。

社会生活に必要とされる知識・技能を身につけるために、日本の言語文化に対する理解と認識を高めてゆくことが求められます。そのため、生徒の興味関心を引き出し、生徒の学習意欲を喚起できる、豊かな価値を有する内容になるよう心がけました。また、言語の教育という点を重視し、国語に関する知識の学習にも留意しました。こうした学びが、生徒に言語文化の担い手としての自覚を喚起させ、豊かな言語活動をとおして社会に関わろうとする態度を養います。学習にあたっては、学習目標の明示、課題、活動、コラムを経て、学習の振り返りによる自己確認に至るまで、個々の教材開発による、一貫した学習計画が達成できるよう配慮しました。さらに、日本の言語文化を特徴的にいさる教材をバランスよく配置するとともに、必要に応じて古典教材と近代の作品とを関連させるなど、発展的に考えさせる学習課題についても格別の配慮をしました。

2. 対照表

図書の構成・内容	特に意を用いた点や特色	該当箇所
日本語の響き	さまざまな時代の文章を読み、日本語の特徴と変遷にふれることをとおして、伝統と文化を尊重し、それらをはぐくんできた我が国と郷土を愛するとともに、他国を尊重し、国際社会の平和と発展に寄与する態度を養うことを目指した（第五号）。	巻頭 〈1〉～〈5〉
古文編 1 古文入門 古文の世界へ 児のそら寝／検非違使忠明／ 絵仏師良秀／四知を恥づ	現代の言葉とは異なる古文に親しむことをとおして、伝統と文化を尊重し、それらをはぐくんできた我が国と郷土を愛するとともに、他国を尊重し、国際社会の平和と発展に寄与する態度を養うことを目指した（第五号）。	11～30
古文編 2 随筆 枕草子 徒然草	異なる随筆を読み比べることをとおして、幅広い知識と教養を身に付け、真理を求める態度を養うことを目指した（第一号）。	31～48
古文編 3 物語 竹取物語 伊勢物語	時代とともに形を変えながら親しまれてきた物語を読むことをとおして、伝統と文化を尊重し、それらをはぐくんできた我が国と郷土を愛するとともに、他国を尊重し、国際社会の平和と発展に寄与する態度を養うことを目指した（第五号）。	49～68
古文編 4 和歌 万葉集 古今和歌集 新古今和歌集	時代を越えて読まれてきた和歌について学ぶことをとおして、個人の価値を尊重して、その能力を伸ばし、創造性を培い、自主及び自律の精神を養うことを目指した（第二号）。	69～90
古文編 5 軍記 平家物語	登場人物の人生観の表れた軍記を読むことをとおして、生命を尊ぶ態度を養うことを目指した（第四号）。	91～106
古文編 6 日記・紀行 土佐日記 奥の細道	異なる時代の日記・紀行文を読み比べることをとおして、伝統と文化を尊重し、それらをはぐくんできた我が国と郷土を愛するとともに、他国を尊重し、国際社会の平和と発展に寄与する態度を養うことを目指した（第五号）。	107～124
漢文編 1 漢文入門 漢文の世界へ 成句・格言を読む (1)～(3)	漢文訓読の基礎を学び、漢文に親しむことをとおして、伝統と文化を尊重し、それらをはぐくんできた我が国と郷土を愛するとともに、他国を尊重し、国際社会の平和と発展に寄与する態度を養うことを目指した（第五号）。	125～136
漢文編 2 故事成語 漁父之利 借虎威 朝三暮四 推敲	現在も使われる故事成語の元となった文章を読むことをとおして、伝統と文化を尊重し、それらをはぐくんできた我が国と郷土を愛するとともに、他国を尊重し、国際社会の平和と発展に寄与する態度を養うことを目指した（第五号）。	137～148
漢文編 3 史話 先從隗始 鶏鳴狗盗 臥薪嘗胆	史話の登場人物たちの生き方について考えることをとおして、個人の価値を尊重して、その能力を伸ばし、創造性を培い、自主及び自律の精神を養うことを目指した（第二号）。	149～162

漢文編 4 漢詩 唐代の詩 日本の漢詩	時代を越えて読まれてきた漢詩について学ぶことをとおして、伝統と文化を尊重し、それらをはぐくんできた我が国と郷土を愛するとともに、他国を尊重し、国際社会の平和と発展に寄与する態度を養うことを目指した（第五号）。	163～180
漢文編 5 文章 雑説 愛蓮説	人材登用と蓮の花のすがすがしさをたたえた文章を読むことをとおして、個人の価値を尊重して、その能力を伸ばし、創造性を培い、自主及び自律の精神を養うことを目指した（第二号）。	181～186
漢文編 6 思想 論語	『論語』で理想とされた学問・人間・政治について考えることをとおして、自他の敬愛と協力を重んずるとともに、公共の精神に基づき、主体的に社会の形成に参画し、その発展に寄与する態度を養うことを目指した（第三号）。	187～196
近代以降の文章編 1 小説 1 羅生門 レッスン	語りの仕組みを理解し、視点を変えて物語を書き換えることをとおして、伝統と文化を尊重し、それらをはぐくんできた我が国と郷土を愛するとともに、その能力を伸ばし、創造性を培い、自主及び自律の精神を養うことを目指した（第二号・第五号）。	197～220
近代以降の文章編 2 詩 小諸なる古城のほとり／時計／ サーカス／シジミ／I was born	詩に描かれた情景や心情を理解し、朗読会を行うことをとおして、個人の価値を尊重して、その能力を伸ばし、創造性を培い、自主及び自律の精神を養うことを目指した（第二号）。	221～238
近代以降の文章編 3 小説 2 夢十夜 予感	作品の構成や場面に注目して読むことをとおして、幅広い知識と教養を身に付け、真理を求める態度を養うとともに個人の価値を尊重して、その能力を伸ばし、創造性を培い、自主及び自律の精神を養うことを目指した（第一号・第二号）。	239～256
近代以降の文章編 4 短歌・俳句 その子二十 一短歌十六首 いくたびも 一俳句十六句	短歌・俳句に詠まれた情景や心情について理解し、実作することをとおして、個人の価値を尊重して、その能力を伸ばし、創造性を培うとともに、他国を尊重し、国際社会の平和と発展に寄与する態度を養うことを目指した（第二号・第五号）。	257～272
近代以降の文章編 5 小説 3 待ち伏せ 快走	作品に描かれたものの見方を捉え、人間や社会について考えを深めることをとおして、生命を尊ぶ態度を養うとともに、他国を尊重し、国際社会の平和と発展に寄与する態度を養うことを目指した（第四号・第五号）。	273～296
近代以降の文章編 6 評論・随筆 日本語の表記法 月の誤訳 文学の未来	日本の言語文化についてそれぞれの視点から描かれた文章を読むことをとおして、幅広い知識と教養を身に付け、真理を求める態度を養うとともに、伝統と文化を尊重し、それらをはぐくんできた我が国と郷土を愛するとともに、他国を尊重し、国際社会の平和と発展に寄与する態度を養うことを目指した（第一号・第五号）。	297～318
ブックガイド	「幅広い知識と教養」「真理の探求」「豊かな情操と道徳心」「自律と勤労」「自他の敬愛と協力」「生命や自然」「伝統と文化」「国際社会の平和」などを尊重し涵養するための読書活動を推進することを意図して、各単元で図書をテーマ別に紹介した（第一号、第二号、第三号、第四号、第五号）。	30,48,68,90, 106,124,136, 148,162,180, 186,190,220, 238,256,272, 296,318

3. 上記の記載事項以外に特に意を用いた点や特色

全ての学習者が学習しやすい紙面づくり

- ❖特別支援教育ならびにカラーユニバーサルデザインの専門家の知見を参考に、ユニバーサルデザインに配慮し、誰もが使いやすい教科書となるよう工夫しました。
- ❖教材で使用している文字にUDフォントを使用し、読み誤りなどが生じにくいよう配慮しました。
- ❖挿絵や図版を適所に配置することで、生徒の学習意欲を喚起し、内容の理解を支えることを目指しました。

カラーユニバーサルデザイン（CUD）への対応

- ❖色覚の特性を考慮し、誰にでも見やすく、学びやすい配色となるよう工夫しました。
- ❖識別しにくい配色は避け、色だけの違いに頼らず、形の違いや、記号・番号・説明文などの補助的な手がかりを設けました。
- ❖色の濃淡や罫線の使い分けなどで違いが明確になるように配慮しました。

環境にやさしい教科書

- ❖環境の保護や資源の節約のため、原料や製法に配慮した環境にやさしい紙を使用しています。
- ❖植物由来の油および、それらを主体とする廃食用油等をリサイクルした再生油を含んだ、印刷インキ工業連合会認定の植物油インキを使用しています。

その他の配慮事項

- ❖製本は堅牢で、十分な耐久性を備えています。

編修趣意書

(学習指導要領との対照表、配当授業時数表)

受理番号	学 校	教 科	種 目	学 年
106-241	高等学校	国語科	言語文化	
発行者の番号・略称	教科書の記号・番号	教科書名		
15 三省堂	言文 015-901	精選 言語文化 改訂版		

1. 編修上特に意を用いた点や特色

(1) 教材選定と作成の基本方針

1 日常生活における言語活動の活発化を目指し、基礎・基本の充実を目指した教材

教材の選定、教材化に当たっては、中学校国語科における学習の成果をふまえて、高校生として望ましい国語の力を身につけ、日常生活における言語活動を活発化できるよう、発達段階にふさわしい基本的なものを選びました。特に古文編、漢文編に関しては、入門期であることをふまえ、興味をもって学習し、いっそうの発展が期待できるよう、特別に工夫を凝らしました。また、生徒たちが自らの思考力・判断力・表現力を高め、さまざまな角度から問題を取り上げ、人生、社会、言語について考えを深めることができる教材を精選しました。

2 感性豊かに人間の姿や心情を描いた、想像力を刺激する魅力あふれる教材

人間の普遍的な生き方や心情を情緒豊かに表現した作品を教材化することにより、日本の言語文化の諸相を幅広く取り上げ、さまざまな角度から言語文化の諸側面にふれ、日本の伝統文化にふれることができるよう配慮しました。特に、古典の現代的意義を日常の言語活動に即して把握できるよう、読みなどの音声的側面や、古典作品と近代以降の作品とのつながりにも配慮しました。

3 読書に親しみ、知識と教養を身につけることのできる教材

幅広い知識と教養を身につけ、真理を求める態度を養うため、読書に親しみ、その意義と効用を考える契機となるような作品を選び、教材化を図りました。

4 バランスよく配置された、定評ある教材と現代的話題の教材

教材の選定は、従来から教材化されて定評のある作品を基軸としつつ、特に近代以降の文章では、現代的な話題や視点について考えることのできる作品や文章を教材化して、生徒の興味を喚起できるように配置しました。また、日常生活において適切に表現する能力を育成し、伝え合う力を高め、必要な言語能力を確実に身につけられる教材を精選しました。

(2) 構成と配列の基本方針

言語文化という科目の性格をふまえ、一つ一つの教材の価値を大切にし、言語活動をととした体系的な知識の習得と生徒の主体的・継続的な学習の流れを保证するため、この教科書では次のような構成で教材の配列をしました。

1 全体の構成

学習の流れを重視し、時代・文種で分けた単元構成としました。

古文編では文法など、漢文編では句形や訓読で注意する語などの基本事項を解説するとともに、適所にコラムを配置し、徒らに抵抗感を覚えることなく、古典世界に興味関心をもてるよう配慮しました。近代以降の文章編では、素材の特質と学習進度を考慮しつつ教材を精選するとともに、近代以前の諸作品とのつながりについて、あるいはグローバル社会における日本の言語文化について考えさせるための課題設定に意を尽しました。

2 「言葉の特徴や使い方」「我が国の言語文化」

言葉の特徴や使い方、我が国の言語文化についての生徒の関心を広げ、知識・技能の着実な理解を図るために、さまざまな工夫を凝らしました。

古文編・漢文編の各教材に「文法と語彙」、近代以降の文章編の各教材に「語彙と漢字」を設け、文法・語彙・表現・漢字について取り立てることで、文化の継承、発展、創造を支える言葉の働きや、我が国の言語文化に特徴的な表現について興味・関心をもてるようにしました。また、「学びを広げる」では、言葉に着目した活動を通して我が国の言語

文化に特徴的な表現の技法を学ぶだけでなく、それを文章の中で使うなど、総合的な国語の運用能力の向上を図ることができるよう、特に配慮してあります。

「古文を読むために」「漢文を読むために」「文学を読むために」を設置し、古典を読むために必要な文語のきまりや訓読のきまり、我が国の言語文化に特徴的な表現の技法と効果、作品や文章の歴史的・文化的背景などについて理解が深まるようにしました。また、古文編・漢文編においては、文語のきまり、訓読のきまりについてのコラムを単元内に組み込み、「文法と語彙」「学びを広げる」と関連づけることで、徒らに網羅的なものとならないよう留意しました。

3 「書くこと」

紀行文を書く、短歌・俳句の実作といった表現活動を設定しました。実作の手順や例を示すことで、自分の知識や体験の中から適切な題材を決定し、表現したいことが明確になるように配慮するとともに、効果的に文章を書く機会となることを企図しています。また、作品の形式についての学習を先に行うことで、自分の体験や思いが効果的に伝わるような表現の工夫を自らの実作に活かし、言語文化の担い手としての自覚をもてるようにしました。

4 「読むこと」

時代・文種で分けた単元とすることで、各時代・ジャンルについての知識を整理しつつ、深く学ぶことができるようにしました。教材の配列は、学習の段階を考慮しつつ、興味関心を継続的に喚起し得る変化に富んだものとなるよう、特に配慮しました。

古文編・漢文編においては、現代につながる古典という観点から、生徒たちが容易にその世界になじみ、興味と関心をもつことができるような教材を選定しました。また、生徒の発達段階に即した、話題性に富む作品を精選し、挿絵・写真・図版などを利用して、視覚的な面からも理解を深めることができるよう配慮しました。

近代以降の文章編では、古典とつながる近現代という観点から、生徒の発達段階に留意しつつ、生徒自らが何らかの言葉を発したくなるような教材を精選しました。また、「参考」「言語文化の扉」などで古典作品が近現代に与えた影響について、興味と関心をもつことができるようにしました。

ほかに、「言語文化の扉」といったコラムや「和歌の世界へ」「漢詩の世界へ」「短歌・俳句の世界へ」といった特設ページを設置することで、作品や文種について学ぶだけでなく、時代の変化とともに移り変わる「言語文化」の流れを理解できるようにしました。また、「学びを広げる」を適宜配置し、翻案や読み比べ、故事成語を使って短文を作るといった活動を設定しました。作品についての理解を深めつつ、多角的な視点をもつ契機となることを企図しています。「学びを広げる」やコラムにおいては、書き下し文や現代語訳などを利用することで生徒の理解を助け、言語文化への興味関心が深まるようにしました。

5 学習指導についての配慮

学習指導への配慮から、各教材の下段の注欄には、次の項目を設けました。

- ①脚注……固有名詞や難解な語句、理解の必要な言葉などを解説しました。
- ②脚問……内容理解の手がかりになる箇所に簡単な問いを掲げました。脚問は教材末尾の「課題」と有機的に関連させてありますが、読解過程の部分的な問題点に気づかせ、それを全体へと展開させていく節目と位置づけました。これは学習上の補助的なもので、学習者の主体性や問題意識の芽を摘み取ることのないように配慮しました。
- ③語句・句法・訓読で注意する語……意味や用法に注意して身につけておきたい語句、漢文を訓読する上で注意する語や句法を抜き出して示しました。

また、各教材の末尾には、次の項目を設けました。

- ①課題……文章の内容や構成を理解するための学習課題を示しました。
- ②文法と語彙／語彙と漢字……語彙の拡充と漢字の習得のため、文章中の語句や表現に着目した問いと、文法や漢字の練習問題を示しました。

さらに、各単元には、次の項目を設けました。

- ①学びを広げる……主体的・対話的に学びを深められる言語活動を設定しました。
- ②単元の振り返り……単元の学習を振り返って確認し、次の学習に生かせるよう、学習目標に対応した振り返りを設けました。
- ③ブックガイド……読書に親しみ、読書活動を広げる手がかりとして、教材と関連のある書籍を選び、紹介しました。
- ④二次元コード……単元扉や教材の冒頭などに付した二次元コードから、学習に役立つさまざまな資料が閲覧できるようにしました。

6 用字・用語・表記について

- ①送り仮名は、「送り仮名の付け方」（昭和四十八年六月十八日付内閣告示第二号）に定められている「本則」および「例外」によりました。
- ②常用漢字以外の漢字については、原則として教材本文ごとの初出に振り仮名をつけました。
- ③常用漢字であっても、「常用漢字表」以外の音訓を使用している場合は、教材初出で振り仮名をつけました。また、常用漢字表内の音訓でも固有名詞など読みにくいもの、迷いやすいものなどには教材初出で振り仮名をつけました。
- ④仮名遣いは、口語体の文章は現代仮名遣いとし、いわゆる文語体の文章は歴史的仮名遣いとししました。振り仮名も同様です。
- ⑤詩歌教材・小説教材など形象性の強い作品の表記は、原則として原典および原作者の求める表記に従いました。また古典教材については、生徒の発達段階を考慮して用字・句読点などに適切な工夫を凝らしました。
- ⑥外国地名・外来語などのカタカナ表記については、「外来語の表記」（平成三年六月二十八日付内閣告示第二号）に従いました。

7 挿絵・写真・図版などについて

教材の読解や言語活動の補助的資料として、鮮明な写真、要を得た挿絵、見やすい図版などを必要に応じて掲載しました。

8 「資料編」について

学習者が主体的に学びを広げていくために参考となる、以下の資料を収録しました。

「文学史年表」「古典文法要覧」「重要古語一覧」「官制・官職／位階」「陰暦」「古時刻・古方位・十干と十二支」「住居・調度」「装束」「漢文の基本形式」「訓読で注意する語」「漢文参考略年表」「旧国名・都道府県名対照図」「平安京条坊図／内裏／大内裏」「京都付近地図／奈良付近地図」「中国参考地図」「常用漢字表」（二次元コードによるリンク）

この「資料編」の活用により、多様な学びの可能性が開かれ、学習者の言葉の生活が豊かになっていくことが期待されます。

2. 対照表

図書の構成・内容（教材名）			学習指導要領の内容	該当箇所	配当 時数
日本語の響き			●読む エ 作品の背景をふまえた解釈／オ 考えの形成 ◆言語文化 エ 言葉の変化／オ 文体の変化	巻頭 (1)～(5)	3
古文編	1 古文入門	古文の世界へ 児のそら寝 検非違使忠明 絵仏師良秀 四知を恥づ	●読む ア 内容や構成の把握／イ ものの見方・考え方の解釈／オ 考えの形成 ◆言葉 ア 言葉のはたらき／エ 文脈 ◆言語文化 ア 言語文化の特質／ウ 古典のきまり／エ 言葉の変化	12～13 14～15 18～19 24～25 26～27	2
	2 随筆	枕草子（参考 春はあけぼの／ありがたきもの／九月ばかり） 徒然草（参考 つれづれなるままに／丹波に出雲といふ所あり／奥山に、猫またといふものありて／亀山殿の御池に／今日は、そのことをなさんと思へど／神無月のころ） 学びを広げる 章段の読み比べ 「家居のつきづきしく」	●読む ア 内容や構成の把握／イ ものの見方・考え方の解釈／オ 考えの形成 [言語活動例] ウ ◆言葉 エ 文脈 ◆言語文化 イ 作品の背景／ウ 古典のきまり／カ 読書	32～35 36～42 43	5
	3 物語	竹取物語（かぐや姫の生ひ立ち） 伊勢物語（芥川／東下り／筒井筒） 学びを広げる 古典作品の翻案を読む	●読む ア 内容や構成の把握／エ 作品の背景をふまえた解釈／オ 考えの形成 [言語活動例] ウ ◆言葉 オ 表現の技法 ◆言語文化 イ 作品の背景／ウ 古典のきまり／カ 読書	50～53 54～62 64～65	4

漢文編	4 和歌	万葉集 古今和歌集 新古今和歌集 学びを広げる 和歌の英訳を日本語に訳し直す	●読む ウ 表現の仕方や特色の評価／エ 作品の背景をふまえた解釈 [言語活動例] エ ◆言葉 ア 言葉のはたらき／ウ 語彙／オ 表現の技法 ◆言語文化 ア 言語文化の特質	70～73 74～77 78～81 88～89	5
	5 軍記	平家物語（祇園精舎／木曾の最期） 学びを広げる 受け継がれる『平家物語』	●読む ア 内容や構成の把握／ウ 表現の仕方や特色の評価／エ 作品の背景をふまえた解釈／オ 考えの形成 [言語活動例] オ ◆言葉 ア 言葉のはたらき ◆言語文化 イ 作品の背景／オ 文体の変化／カ 読書	92～100 101	3
	6 日記・紀行	土佐日記（門出／忘れ貝／帰京） 奥の細道（旅立ち／立石寺／大垣）	●読む ウ 表現の仕方や特色の評価／エ 作品の背景をふまえた解釈 ◆言葉 オ 表現の技法 ◆言語文化 ア 言語文化の特質／イ 作品の背景	108～114 116～121	2
		学びを広げる 紀行文を書く	●書く ア 題材の設定・材料の吟味・表現の明確化／イ 表現の工夫 [言語活動例] ア ◆言葉 ア 言葉のはたらき／ウ 語彙	122	3
	1 漢文入門	漢文の世界へ 成句・格言を読む (1)～(3)	●読む ア 内容や構成の把握／イ ものの見方・考え方の解釈／オ 考えの形成 ◆言葉 ア 言葉のはたらき ◆言語文化 ウ 古典のきまり／エ 言葉の変化	126～127 128,130,132	3
	2 故事成語	漁父之利 借虎威 朝三暮四 推敲 学びを広げる 今に生きる故事成語	●読む ア 内容や構成の把握／イ ものの見方・考え方の解釈／エ 作品の背景をふまえた解釈 [言語活動例] オ ◆言葉 ウ 語彙 ◆言語文化 ウ 古典のきまり／エ 言葉の変化	138～139 140～141 142～143 144 145	3
	3 史話	先従隗始 鶏鳴狗盗 臥薪嘗胆 学びを広げる 史話の登場人物	●読む ア 内容や構成の把握／イ ものの見方・考え方の解釈／エ 作品の背景をふまえた解釈／オ 考えの形成 [言語活動例] イ ◆言葉 ウ 語彙 ◆言語文化 イ 作品の背景／ウ 古典のきまり／カ 読書	150～151 152～155 156～158 159	3
	4 漢詩	唐代の詩（春暁／静夜思／江雪／涼州詞／送元二使安西／江南春／春望／八月十五日夜、禁中独直、対月憶元九） 日本の漢詩（冬夜読書／題自画） 学びを広げる 訳詩の試み	●読む ア 内容や構成の把握／イ ものの見方・考え方の解釈／オ 考えの形成 [言語活動例] エ ◆言葉 ア 言葉のはたらき／オ 表現の技法 ◆言語文化 ウ 古典のきまり	164～171 172～173 178	4
	5 文章	雑説 愛蓮説	●読む イ ものの見方・考え方の解釈／ウ 表現の仕方や特色の評価 ◆言葉 エ 文脈 ◆言語文化 ウ 古典のきまり	182～183 184～185	2
	6 思想	論語（学問／人間／政治） 学びを広げる 今に生きる『論語』	●読む イ ものの見方・考え方の解釈／オ 考えの形成 [言語活動例] オ ◆言葉 ア 言葉のはたらき ◆言語文化 イ 作品の背景／エ 言葉の変化／カ 読書	188～193 194	4

近代以降の文章編	1 小説1	羅生門 参考 羅城門登上層見死人盗人語第十八 (今昔物語集) レッスン 学びを広げる 小説の書き換え	●読む ア 内容や構成の把握／ウ 表現の仕方や特色の評価／エ 作品の背景をふまえた解釈／オ 考えの形成 [言語活動例] エ ◆言葉 イ 漢字／ウ 語彙／エ 文脈 ◆言語文化 イ 作品の背景	198～211 212～213 214～217 219	6
	2 詩	小諸なる古城のほとり 時計 サーカス シジミ I was born	●読む イ ものの見方・考え方の解釈／ウ 表現の仕方や特色の評価 ◆言葉 ア 言葉のはたらき／ウ 語彙 ◆言語文化 エ 言葉の変化	222～223 224～225 228～229 230～231 232～236	3
	3 小説2	夢十夜 予感	●読む イ ものの見方・考え方の解釈／ウ 表現の仕方や特色の評価 ◆言葉 イ 漢字／ウ 語彙／エ 文脈	240～249 250～254	3
	4 短歌・俳句	その子二十 一短歌十六首 いくたびも 一俳句十六句	●読む イ ものの見方・考え方の解釈／ウ 表現の仕方や特色の評価 ◆言葉 ア 言葉のはたらき／ウ 語彙／オ 表現の技法	258～261 262～264	4
		学びを広げる 短歌・俳句を作る	●書く ア 題材の設定・材料の吟味・表現の明確化／イ 表現の工夫 [言語活動例] ア ◆言葉 ウ 語彙／オ 表現の技法	270～271	3
	5 小説3	待ち伏せ 快走	●読む イ ものの見方・考え方の解釈／エ 作品の背景をふまえた解釈／オ 考えの形成 ◆言葉 イ 漢字／エ 文脈 ◆言語文化 カ 読書	274～280 281～294	3
	6 評論・随筆	日本語の表記法 月の誤訳 文学の未来 学びを広げる 作品を読み直す	●読む ア 内容や構成の把握／イ ものの見方・考え方の解釈／ウ 表現の仕方や特色の評価／オ 考えの形成 [言語活動例] ア ◆言葉 ア 言葉のはたらき／イ 漢字 ◆言語文化 ア 言語文化の特質／カ 読書	298～303 304～307 308～316 317	2
言語文化の扉			◆言語文化 ア 言語文化の特質／イ 作品の背景／エ 言葉の変化／オ 文体の変化	44,63,87,102,115, 123,146,160～161, 179,195,226～227, 268～269	適宜
古文を読むために／漢文を読むために／文学を読むために			◆言葉 ウ 語彙／エ 文脈／オ 表現の技法 ◆言語文化 ウ 古典のきまり／エ 言葉の変化	16～17,20～23, 28～29,45～47, 66～67,84～86, 103～105,129,131, 133,147,174～175, 218,237,255,265, 295	適宜
和歌の世界へ／漢詩の世界へ／短歌・俳句の世界へ			◆言語文化 ア 言語文化の特質	82～83,176～177, 266～267	適宜
ブックガイド			◆言語文化 カ 読書	30,48,68,90,106, 124,136,148,162, 180,186,196,220, 238,256,272,296, 318	適宜
資料編 文学史年表 古典文法要覧 重要古語一覧 官制・官職／位階 陰暦 古時刻／古方位／十干と十二支 住居・調度 装束 漢文の基本形式 訓読で注意する語 漢文参考略年表 旧国名・都道府県名対照図 平安京条坊図／内裏／大内裏 京都付近地図／奈良付近地図 中国参考地図 常用漢字表（二次元コードによるリンク）			◎国語科の学習を効果的に進める上で役立つ知識を整理して示し、国語に対する認識を深め、国語を尊重する態度の育成を図っている。	320～343 344～351 巻末(1)～(4)	適宜